

費用、環境負荷を低減

J A新潟 かがやき管内の豚ふん利用

混合堆肥複合肥料を独自開発

【下越】JA新潟かがやきは、肥料メーカーの朝日アグリア㈱（東京都豊島区）と共同で、管内の豚ふん堆肥を原料に使ったJAオリジナル肥料「栄光（エゴ）のかがやき250」（1袋20kg）を開発した。JA独自の混合堆肥複合肥料の開発は県内で初という。地域資源の活用で原料の多くを輸入に依存する化学肥料を低減し、低コストで環境負荷を抑えた農業を目指す。

豚ふん堆肥は、成分
や水分、ロットなどメ
ーカ―の受入基準をク
リアした養豚会社（新

潟市南区）のものを約
30%使用。肥料の保証
成分は窒素12%、リン
酸5%、カリ10%、マ



混合堆肥複合肥料「栄光（エゴ）のかがやき250」の包装袋

ンガン0.2%、ホウ素0.1%。粒状ペレットに加工しているため、ブロードキャストでも散布できる。併せて、土づくりの効果も期待できる。

JAは2023年に試作品をエダマメ、キユウリ、ミニトマト、桃、日本梨、小玉スイカで試験をし、製造と販売を決めた。

24年1月に予約受注を始め、2月から供給を始める予定だ。

JA経済部の山田一成部長は「肥料高騰の中で、地域資源を利用した低コストで環境に優しい肥料として、生産者に勧めたい」と話している。